

1 指導資料の活用の仕方

この防災教育指導資料は、学校の学習活動全体を通して、万一の大震災などを想定して行う避難訓練とその事前・事後指導において活用したり、各教科等との連携を図りながら各学校で創意工夫して活用したりできるように次のように構成してあります。

指導教材の活用の仕方 【P1】

○ **ねらい、指導の重点は？**

防災教育のねらい・重点・機会 【P2】

○ **どのような内容で？**

防災教育に関連する教科等の指導内容 【P3】

○ **いつ、どんな場面で？**

地震の内容

指導の展開例及びワークシート

- 幼稚園用
- 小学校低（1・2）学年用
- 小学校中（3・4）学年用
- 小学校高（5・6）学年用
- 中学校用

津波の内容

指導の展開例及びワークシート

- 幼稚園用
- 小学校低（1・2）学年用
- 小学校中（3・4）学年用
- 小学校高（5・6）学年用
- 中学校用

風水害の内容

指導の展開例及びワークシート

- 幼稚園用
- 小学校低（1・2）学年用
- 小学校中（3・4）学年用
- 小学校高（5・6）学年用
- 中学校用

○ **主体的な学びのために**

指導教材 【P46～P59】

○地震について【P46～P52】 ○津波について【P53～P56】 ○風水害について【P57～P59】

参考資料 【P60～P73】

- 心のケアのために
- 参加型の学習について
- 発問について
- 学校安全計画の例（幼稚園・小学校・中学校）

2 防災教育のねらい・重点・機会

< 防災教育のねらい >

- 1 自然災害等の現状、原因及び減災等について必要な情報を収集し、理解を深め、現在及び将来に直面する災害に対して、安全な生活を実現するために何が必要かを考え、適切に意思決定し、行動できるようにする。
- 2 地震、台風の発生等に伴う危険を理解・予測し、自らの安全を確保するための行動ができるようにするとともに、日常的な備えができるようにする。
- 3 自他の生命を尊重し、安全で安心な社会づくりの重要性を認識して、学校、家庭及び地域社会の安全活動に進んで参加・協力し、貢献できるようにする。

災害対応能力の基礎を培う



< 防災教育の重点 >

● 幼稚園

日常生活の場面で、危険な場所、危険な遊び方などが分かり、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付けることができるようにする。

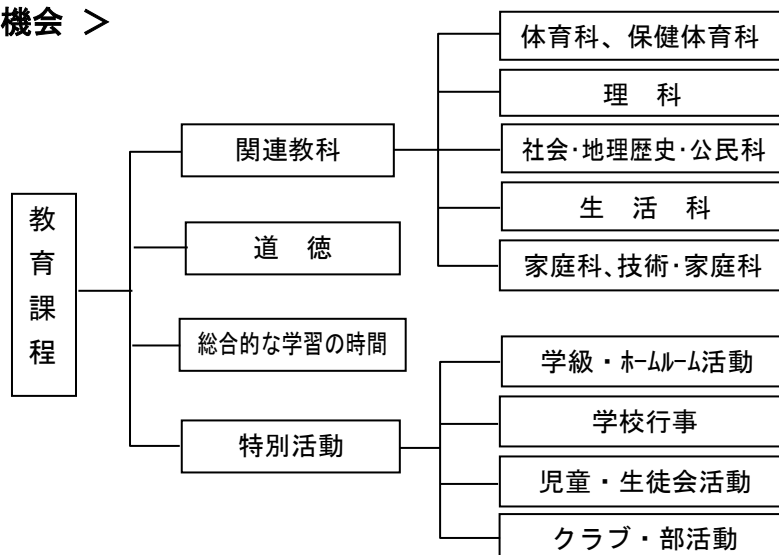
● 小学校

- 低学年： 教職員や保護者などの指示に従い適切な行動ができるようにするとともに、危険な状態を発見した時には教職員や保護者など近くの大人に伝えることができるようにする。
- 中学年： 災害のときに起こる様々な危険について知り、自ら安全な行動ができるようにする。
- 高学年： 日常生活の様々な場面で発生する災害の危険の要因を理解し、安全な行動ができるようにするとともに、自分の安全だけでなく、周りの人の安全にも配慮できるようにする。

● 中学校

地域の安全上の課題を踏まえ、災害発生のメカニズムの基礎や様々な地域の災害事例、日常の備えや災害時の助け合いの大切さを理解し、日常生活における危険を予測し自他の安全のために主体的に行動できるようにするとともに、地域の安全にも貢献できるようにする。また、心肺蘇生法等の応急手当ができるようにする。

< 防災教育の機会 >



★ 学校安全計画に位置付けて、教科等横断的な視点で組み立てていくこと。